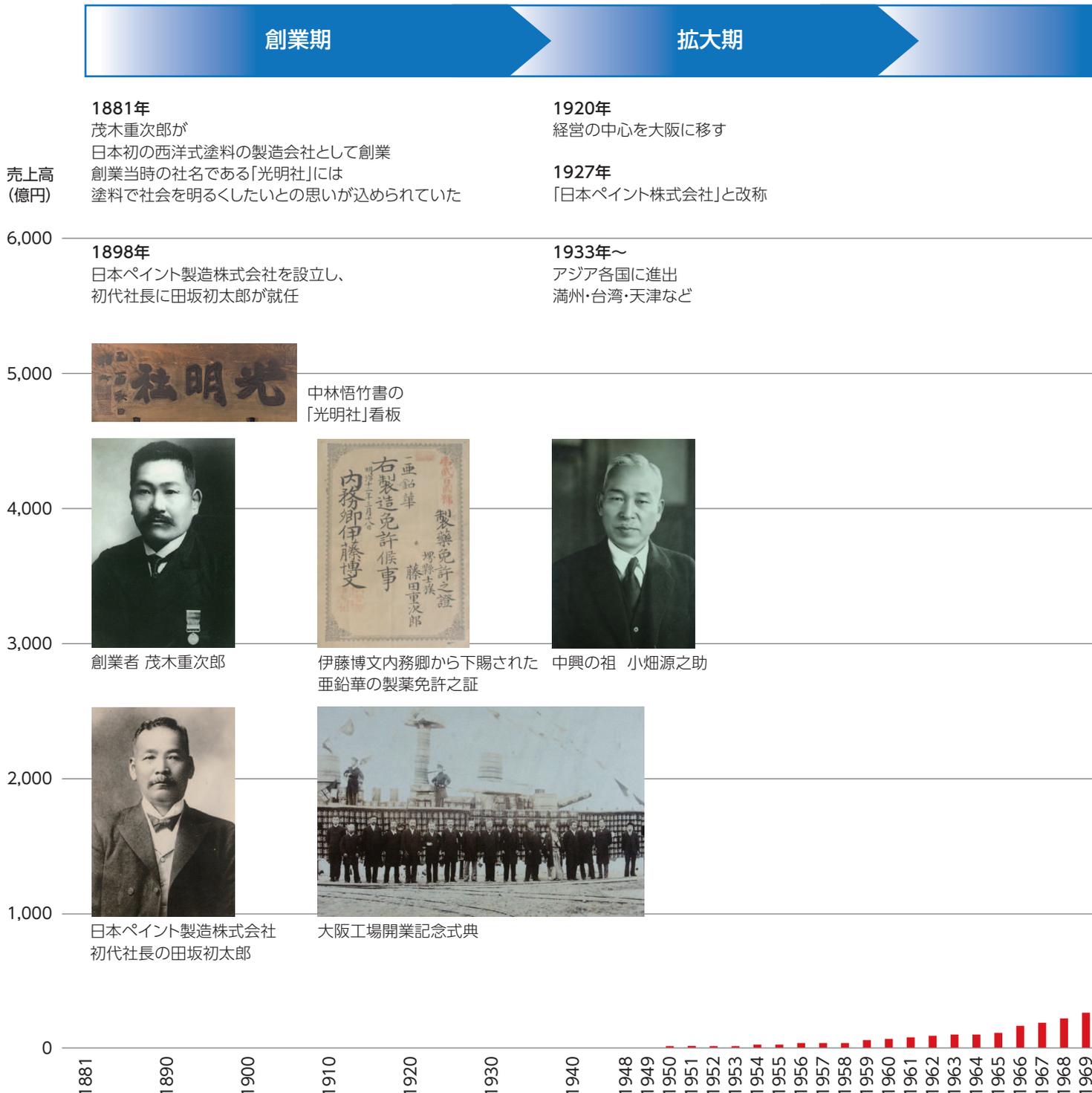


日本ペイントホールディングスグループの歩み

日本ペイントホールディングスは、1881年に前身である光明社が我が国初の洋式塗料を製造して以来、130年以上にわたり日本の塗料業界のリーディングカンパニーとして歩んでまいりました。2014年に、アジアにおける50年来のパートナーである Wuthelam(ウットラム)との協業を深化し、アジアでともに展開してきた合併事業を当社グループが連結化することで、アジア No.1の塗料メーカーとなりました。

私たちは「株主価値の最大化」を常に念頭に置き、当社グループの Global One Team の総合力を発揮することで、グローバルでの競争に打ち勝つ真のグローバルカンパニーを目指してまいります。



Wuthelamと展開するアジア事業(NIPSEA)の歩み

Wuthelamとの協業は、1962年に遡ります。シンガポールにパン・マレーシア・ペイント・インダストリー社を共同で設立し、アジアにおける塗料事業を開始しました。1970年代までにタイ・マレーシア・フィリピンなどに事業を拡大し、1992年には中国本土へ展開しました。これらの事業を NIPSEA (Nippon Paint South East Asia)と呼称しています。現在ではアジアの14の国と地域で事業を展開しており、当社グループの売上高の過半を占めるまでに成長しています。



1962年～67年
海外展開を再開
シンガポールで事業を開始
Wuthelamとアジアで協業を開始
(NIPSEA事業の開始)
タイ・マレーシアに事業を展開

1975年～77年
アメリカ・イギリス・フィリピンに事業を展開

1992年
中国に事業を展開
上海を始め主要都市に展開を進める
2007年～08年
Wuthelamとの協業を深化
タイ・台湾・フィリピン・韓国を連結子会社

2014年
ホールディングス体制に移行
Wuthelamとの協業をさらに深化
NIPSEA事業を連結子会社化した一方で、
Wuthelamに6,000万株を第三者割当増資
アジアNo1、世界No4の塗料メーカーとなる

2015年
国内事業再編
事業別に事業会社に分社化
2017年
中国CRF社を買収
米国DUNN-EDWARDS社を買収

2018年
2030年の“ありたい姿”を、
「新たな価値を創造し続ける
リーディングカンパニー」と定める

